

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 20 日現在

機関番号：12101
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20520456
研究課題名(和文) 外国人と日本人の相互理解における認知的・情意的側面に関する実証的研究
研究課題名(英文) An empirical study on some cognitive and emotive aspects of mutual understanding between foreigners and Japanese
研究代表者
安 龍洙 (AN YONGSU)
茨城大学・留学生センター・教授
研究者番号：80361286

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：外国人の対日観、日本人の外国観、異文化理解、多文化共生社会

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、外国人と日本人がお互いをどのように理解し評価しているのかについて、内藤が開発した個人別態度構造分析法(PAC分析)を用いて認知的・情意的な観点から探り、「多文化共生社会」における「外国人と日本人」の相互理解のあり方を明らかにすることである。

2. 研究の進捗状況

本研究では日本人と外国人の相互理解の実態について、内藤が開発した個人別態度構造分析法(PAC分析法)を用いて認知的・情意的な観点から探ることを目的とする。PAC分析法は、対象者が自由に自発的に項目を作り出し、それに基づいて自らが反応するため、対象者の自発性・自律性が尊重され、個々の被調査者の認知的・情意的変容を捉えることができる。研究代表者・安龍洙は、研究全体を総括するとともに、外国人の日本人観についての研究を進めており、雑誌論文5件(うち2件は査読付論文)の研究成果を上げている。現在、留学前後の韓国人の対日観の変容及び外国人との接触の少ない日本人の対日観に関する調査を終え、データを分析

中である。研究分担者・池田庸子は留学前後で日本人学生の異文化に対するイメージがどのように変容するかについて研究を進めており、雑誌論文2件の研究成果を上げている。現在、外国人との接触の少ない日本人を対象に、彼らの外国人観を探り、データを分析中である。研究分担者・内藤哲雄は日本人の中国人観を中心に研究を進めており、雑誌論文1件、学会発表2件の研究成果を上げている。研究分担者・八若壽美子は留学生と接触機会の多い日本人学生と日本人日本語教師を対象に外国・外国人に対するイメージについて研究を進めており、雑誌論文2編、口頭発表1件(共同)の研究成果を上げている。現在、マレーシア人学生の対日観に関する調査結果を分析中である。研究分担者・藤原智栄美は日本語の学習経験を持つ台湾人及びNon-native日本語教師の対日観について研究を進めており、これまで雑誌論文2件、学会発表1件(共同)の研究成果を上げている。

以上のように、これまで雑誌論文12件(うち1件は国際会議論文)、学会発表3件の研究成果を上げている。当初の計画通り順調に研究を遂行している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初計画していた日本人の外国人観及び外国人の日本人観に関するすべての調査が終了し一部は既に発表している。未発表のデータは現在分析中であり、研究最終年度中に発表を終える予定であるため、研究が順調に進展しているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

今後は具体的に以下のことを中心に研究を進めていく。

①留学前後の韓国人の対日観の変容について論文発表を行う。

②外国人との接触の少ない日本人の対日観に関して分析し論文発表を行う。

③マレーシア人学生の対日観に関する調査し論文発表を行う。

④これまでの研究成果をまとめ、報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

①池田庸子、日本人学生の異文化観に関する事例研究(2)-海外留学経験による異文化間の変容、茨城大学留学生センター紀要 9、pp. 47-56、2011 (査読無)

②内藤哲雄、中国と中国人の人間関係のスキーマの獲得と発達、人文科学論集 45、pp. 55-71、2011 (査読無)

③安龍洙、外国人の対日観に関する研究:日本滞在歴の長い韓国人の場合、ユーラシア研究 7(4) 19、pp. 373-392、2010 (査読有)

④八若壽美子・藤原智栄美、「Non-native 日本語教師の対日イメージ-個人別態度構造分析法(PAC 分析)による事例研究、茨城大学留学生センター紀要 8、pp. 19-42、2010 (査読

無)

⑤安龍洙、韓国人の対日観に関する一考察-個人別態度構造分析法(PAC)を用いて-、ユーラシア研究 5(3)、pp. 107-125、2008 (査読有)

〔学会発表〕(計3件)

①内藤哲雄、中国のイメージの PAC 分析、日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集、pp. 676-677 (2010 年 9 月 17~18 日、広島大学)

②藤原智栄美・八若壽美子、アジア地域で教える Non-native 日本語教師の対日イメージ-個人別態度構造分析法(PAC 分析)を用いた事例研究、2009 年度台湾日本語教育研究国際学術シンポジウム-日本語教育のジャンルの広がり求めて、pp. 35-46 (2009 年 12 月 6 日、台湾 静宜大学)

③内藤哲雄、中国人の人間関係の PAC 分析、日本心理学会第 73 回大会発表論文集、p. 269 (2009 年 8 月 26~28 日、立命館大学)